記事において、エンタテイメント性を保ちつつエイズ予防/セクシュアルヘルス関連のテーマを取り上げる；2)医師やMSWまたは検査技師等、専門職者のインタビュー記事を掲載する。

（目的）

1) MASH大阪が把握している情報をコミュニティに還元する；2) 配布活動を通じて、コミュニティとのネットワークを構築する；3) 地域に密着した情報を発信し共有化をはかることで、コミュニティへの帰属意識を涵養する。

（方法）

今年度も昨年同様の編集方針で進め、発行部数もほぼ同程度で行なった。

（成果）

今年度は毎月平均187店舗と45団体に21名のボランティアスタッフが6,365部を配布した（2013年12月末時点）。年間を通して、発行部数のほとんどは、ゲイタウンや地域団体への配布であった。（付表1）

2009（平成21）年に実施した調査研究の結果、1号から95号まで一貫してみられる特徴として、1)多声的な言説空間の構築がめざされている、2)セクシュアルマイノリティであることを問題視しない、3)セックスを肯定的に捉える、4)HIV陽性であることを特別視しない、5)文体は「笑い」を基本とする、が明らかとなった。変遷をたどる読みから見えてきた特徴としては、第1期（1号～12号）では記者・編集者の声が中心であるのに対し、第2期（13号～76号）では記者・コミュニティメンバー・専門職者の声が交じり合う傾向が強くなり、第3期（77号～95号）ではこれに加え科学的・制度的言説（シグナル）と個人の観測・感情・破綻（ノイズ）が混在していることがあげられた。本年度は第3期の方針が踏襲されている。

②コミュニティペーパー＜南界堂通信＞

（目的）

HIV 検査受検のニーズ、早期治療のニーズが極めて高い大阪地域の 40 歳以上の中高年層 MSM に向けて必要な情報を提供し、予防行動、受検行動を促す。

（方法）

コミュニティペーパー＜南界堂通信＞（以下、＜南界堂通信＞）を定期的に発行し（当面は季刊）、継続的に中高年層をエイズ関連情報に晒すようにする。ここでいう中高年層とは 40 歳以上を指すが、特に 40 歳代、50 歳代 MSM をメインのターゲットとする。

これまでの調査や活動実績から、中高年 MSM にはエイズの知識のみを前面に押し出す資材は手に取ってもらえないことが分かっており、予防啓発関連情報だけでなく、MSM 関連の教養、セクシュアルヘルス、ライフスタイルに目配りした情報を提供することで、この先も健やかで充実した人生を送れるようなライフプランを提案しつつ、予防行動、受検行動の促進につなげることが必要である。

（成果）

今年度は、大阪市のMSM向けHIV予防啓発普及啓発事業、大阪府地域医療再生基金事業として実施した。今年度は毎月平均195店舗と45団体に21名のボランティアスタッフが1804部を配布した（2013年12月末時点）（付表2）。年4回の季刊として発行した。利用者から「字が大きくて読みやすい」「中高年向け資材の発行を待っていた」などの声が寄せられた。新たにプログラムの担当者を置き内容の拡充と体制の強化を図った。記事内容に医師等の医療従事者へのインタビューや、地域の歴史、中高年特有の疾患などに合わせて、エイズ関連の情報を掲載している。現在、担当者1人ボランティアスタッフ4人と編集体制は整いつつある。

(2) グループ・個人レベル

①コミュニティスペース＜dista＞

（目的）

大阪地域のゲイ男性が利用する商業施設が多い地域に啓発普及の活動拠点を整備・運営し、HIV/STI感染予防に向けた啓発プログラムを戦

略的に展開することを事業目的とする。コミュニティセンターの機能は以下のとおりである。

○予防啓発事業の拠点機能として

・啓発活動およびアウトリーチのベース基地（啓発の実施・普及機能）

・予防啓発に関わるスキル研修会・講習会会場（人材育成機能）

・セーファーセックス勉強会やワークショップ会場（啓発普及機能）

○情報センター機能として

・コミュニティの人がふらっと自由に立ち寄れて、セクシュアルヘルスに必要な情報やコミュニティの情報を持ち帰ることができる（情報の還元・普及機能）

・相談場所・窓口（相談機能）

○コミュニティセンター機能として

・コミュニティ交流プログラム会場（地域交流機能）

・コミュニティからのリアクションをフィードバックさせる（情報収集機能）

・リピーターを獲得し、その人達と相互に確実な情報伝達をくりかえすことによって、コミュニティ内のキーパーソンの育成をはかる。

（対象クライアント）

対象クライアントとして以下を想定した。1)ゲイ関連商業施設従業員;2)ゲイ関連商業施設利用者;3)インターネット利用者;4)エイズ対策関連団体／個人

（成果目標）

成果目標として以下を想定した:1)当事者性を重視した予防啓発活動をコミュニティの中心エリアで実施し、コミュニティメンバーや関係機関との連携・協働により、セクシュアルヘルスの増進、セーファーセックスへの環境づくりを目指す;2)コミュニティスペースdista（以下、dista）を核としたコミュニティ・ネットワークを構築し、そのネットワークを通じてHIV/STIの予防や共生のメッセージと正しい情報が伝わってゆくことを目指す;3)情報と空間・時間を共有し、HIVを身近に感じる人が増えていくことで、HIV/AIDSの予防と共生の意識がコミュニティ全体に広がり、行動変容を促すことを目指す。

（運営体制）

2013（平成25）年度は昨年に引き続き、基本オープン時間を水曜日～月曜日の17時～23時とし、火曜日を休館日とした。土曜日には不定期でイベントを開催し、その際はオープン時間を17時～5時とした。17時～20時をAシフト、20～23時をBシフト、及びイベント開催時の土曜日の23時～5時をCシフトとして、運営スタッフとコンシェルジュ（ボランティア・スタッフ）がシフトを組んでdistaの運営業務に当たった。コンシェルジュは現在4名で稼働している（2013年12月時点）。

（成果）

今年度の施設オープン時間は月平均 180.1 時間であった。来場者数は月平均624.3名であり、前年度より微減した。そのうち初来場者は月平均 63.1 名であり、昨年よりも微増した。初来場者数は全体の約1割であった。

distaの利用状況及び利用者数年度別推移は付表3と付表4、利用者年代別状況は付表5に示した。今年度に開催したカフェイベントと教室の実施内容および展覧会内容は付表 6 と付表7のとおり。相談件数は月平均14.2件であった。その推移と相談内容は付表8及び付表9のとおり。また相談・支援体制の強化と今後の体制構築を目的として＜対人支援会議＞を企画し、月に1度開催した(付表10)。

また、ふらっと来た来場者のうち特に初来場者については、コンシェルジュが積極的にコミュニケーションをとる方針を徹底させたことにより、distaの説明や予防、検査情報を確実に提供できた。

今後は、相談員の育成と、幅広い年齢層に届く広報や企画を推進し、新規利用者の獲得と、相談と予防情報の提供を確実に行える予防・支援拠点としての充実を目指す。

②STI勉強会＜性の健康教室＞(2012年4月から＜SEX & LIFE 勉強会＞の名称を変更して開始)＞

（目的）

＜性の健康教室＞は、「SEXとHIV/STI」を中心としたテーマを設定し、一義的な展開や啓発色の強いメッセージを発信するのではなく、自らの言葉で意見、情報を交換し、多様な性や生活のあり方を認め合いその雰囲気を共有するものである。自分達にとってのSEXを考え、語ることにより、SEXに対する興味や意識を喚起し、SEXと密接な関係にある性感染症に対する認識を促すことを目的とする。また、SEXの話題の中にセーファーセックスに関する情報を盛り込み、STIやセーファーセックスに対する知識向上と共に予防と共生の意識を浸透させることを目指すプログラムである。

（方法）

実施手法として以下の点を挙げる：1）ファシリテーターを設け対話形式での展開を行う；2）対話の場を問題なく円滑に進行させるためグランドルールを設ける；3）参加者が意見を発し、取り組みやすいような場所や雰囲気を設定する。

今年度は、毎月第2土曜日(18時～20時)に実施した。対話や相談等の場となることに留意した。

広報は、＜SaL+＞やdista.bや、mixiやtwitter等のソーシャルメディアを用いて行なった。

（成果）

エロネタや恋愛ネタなどの身近なテーマ設定により、積極的な参加と発言を促すことができた。また、セックスや恋愛に関する実践的な話を共有することで、実生活に役立つ情報を共有し、実践に役立ててみるという声が聞かれるなど、情報を持ち帰ってもらうことの有意性が感じられた。自身の経験をポジティブに語る機会は自身だけでなく他の参加者の経験に対してもポジティブに捉えることができ、安心して発言ができる雰囲気を作り出すことができた。その結果、性感染予防やセクシュアルアイデンティティの形成について対話することの重要性を実感し、それを共有する機会を作り出すことができた。また、プログラムの最後に15分程度のミニ勉強会や対話の中でセーファーセックスを意識するための仕掛けを設けることで、必要な情報を的確に伝えやすく、参加者への意識づけが可能な機会となった。今後も新規クライアントの獲得を目指す場合の広報の手法や、運営体制の見直しを行い、今までのノウハウを活かしつつ更なる充実を目指す。プログラム実施状況は付表11に示した。

③若年層ネットワーク構築支援プログラム＜Step＞

（目的）

コミュニティにあまりアクセスしていない10代～20代の若者をターゲットとしたプログラムである。プログラムの目的として以下の点が考慮されている：1）コミュニティや、MASH大阪に未接触の若者に対する入り口となる事；2）参加者がdistaへアクセスするようになる事；3）他のプログラムへのボランティア・リクルートになる事。

（方法）

事業は以下の点に留意しつつ展開した：1）啓発色を出さず、季節感やお得感を出し、遊びに行く、楽しむ、友達作りなどの企画を実施する；2）distaへアクセスするきっかけを提供する；3）mixi（大手のSNS＝ソーシャルネットワーキングサイト）を中心とした広報宣伝を行う；4）プログラムに関わるスタッフの友人の中であまりSTIの情報に触れていないクライアントの参加を促進させる；5）企画運営実行は主にコミュニティの若者が中心に行う。

（成果）

今年度は2013（平成25）年4月～12月に、計11回の企画を実施した。実施内容は付表12のとおり。参加者は合計172名、そのうち初参加者が25名、過去に参加経験のある人は147

名であった。

本プログラムの目的のうち、コミュニティやMASH 大阪に未接触の若者に対する入り口となる事と、参加者が dista へアクセスするようになる事については、あまり達成できていなかったため、今年度は若者オーガナイザーを中心とした StepPARTY を開催しコミュニティにアクセスしていない層が最初の入り口としてコミュニティセンターを利用するリクルート方法を行った。

2. 二次予防関連プログラム

(1) <クリニック検査 1,000 円キャンペーン>

(目的)

診療所・クリニックを活用し、MSM に対して、彼らが受検しやすい HIV/STI 検査受検機会を提供することにより、エイズ発症に至ってから自分が HIV 感染していることに気づく人を減少させ、ひいては HIV/STI の感染拡大を抑止することに寄与することを目指す。

上記の目的は以下の 2 点に具体化される：1) HIV/STI 検査受検の選択肢の一つとして、診療所・クリニックを位置づけることで、診療所・クリニックにおける MSM の HIV/STI 検査受検を促進する。その結果、STI の結果が陽性の場合は、そのまま治療へつながる、その後も行きやすい、かかりつけの診療所・クリニックをつくる、などのメリットが考えられる；2) 通常検査と迅速検査の違いやそれぞれのメリットとデメリットについての理解を促進し、違いを踏まえたうえで、自分自身で決定、選択して受検できるよう周知を図る。

(方法)

本プログラムを理解し、協力の得られる診療所・クリニックにおいて次の 2 つの検査を選択できる：

1) 通常検査：採血後 1 週間以降に検査結果を通知する「HIV/STI 検査 5 種類セット (HIV、梅毒、B 型肝炎、C 型肝炎、クラミジア
2) 迅速検査：採血したその日のうちにスクリーニング検査結果を通知する（要確認検査の場合は、翌週以降に検査結果を通知する)「HIV/STI 迅速検査 4 種類セット (HIV、梅毒、B 型肝炎、C 型肝炎)」。

但し要確認検査時は、臨床検査会社で第四世代のスクリーニング検査法によって追加スクリーニング検査を行う。また梅毒検査陽性時には、治療が必要かどうか判断するために臨床検査会社で追加の定量検査を行う。

フライヤー、ポスター、ホームページ、twitter、ハッテン場ロッカー、各種 SNS などを利用し、1,000 円の自己負担で HIV/STI 検査が受けられることを広報した。<SaL+>にキャンペーンの告知も行った。

MSM 自らが、通常検査か迅速検査かを選択し協力診療所を訪れる。協力診療所で広報資材添付カードかウェブ画面を提示し、このキャンペーンによる受検とした。

検査前後の不安へのサポート (特に迅速検査により要確認検査となる人へのサポートが重要) として、以下の相談対応を用意した：

1) dista (対面・電話・メール)：火曜を除く毎日 17 時～23 時
2) CHARM、HIV サポートライン関西 (電話)：毎週月曜・水曜日 19 時～21 時

実施期間は、2013 (平成 25) 年 8 月～9 月末と、2013 (平成 25) 年 12 月～2014 (平成 26) 年 2 月末の 2 回とした。広報は、初回は 7 月より、2 回目は 11 月より実施した。

受検者には、採血後に調査票アンケート (診療所・クリニックで回収) の記入を依頼した。

この検査キャンペーンは、大阪府「地域医療再生基金事業」によるもので、本研究班はアンケート調査により受検層を把握した。

(成果)

○協力診療所・クリニックは計 8 施設で、通常検査は岩佐クリニック、高田泌尿器科、田端医院、京橋杉本クリニックで、迅速検査はそねざき古林診療所、亀岡クリニック、菅野クリニック、中村クリニックで提供された。

○受検者数は 1 回目 2 ヶ月間の実施で 222 名であった。(昨年実施した同様のキャンペーンでは実施期間が 3 ヶ月で 189 名の受検者であった)

○受検者のうち、HIV 陽性が 6 名(陽性率 2.7%)であった。その他の性感染症は梅毒(要治療患者)が 5 名、B 型肝炎抗原陽性が 1 名、C 型肝炎抗体陽性が 1 名、クラミジア抗原陽性が(通常検査受検者 68 名中)2 名であった。

○通常検査の受検者が 68 名、迅速検査の受検者が 154 名であった。

○受検したが結果を受け取りにこなかった人が 5 名いた(通常検査 4 名、即日検査 1 名)。

○クリニック・診療所の医師から陽性結果を受け取った時に資材をもらったことにより、陽性の人のためのサービスやプログラムを知り、利用した人がいたことが確認された。これまでのクリニック検査キャンペーンをきっかけに、クリニック・診療所と地域サービスの連携が強化されてきていることが示唆された。

○キャンペーン期間中(7 月 1 日〜9 月 30 日)の広報サイトの閲覧数(アクセス数:PC サイトとスマートフォンサイトと携帯サイトの合算)は 8,002 件であった。

○広報資材の設置にあたり、MSM 向けサウナ系マンション系商業施設との交渉を行った。結果、MASH 大阪と協力関係にあるハッテン場商業施設 18 軒からマグネットポケット設置についての協力が得られた。

○MSM 向けサウナ系商業施設用の資材として、ロッカーに貼付けられるマグネットポケットを準備し、その中に入れるブックレット型の資材を製作した。

○マグネットポケット貼付け作業は、ハッテン場商業施設スタッフの協力を得てロッカー内に貼りつけた。協力施設のロッカー数は計 1,346 個であった。(付表 13)

○昨年度に引き続き、ハッテン場ロッカーを利用した広報を行った。この取り組みによりハッテン場商業施設との連携ができた。

○受検者アンケートを分析した結果を付表 14 および図 1-4 に示した。

- アンケートの回答者は 209 名(回収率 94.1%)であった。
- 居住地は 74.2%が大阪府内であり、性的指向がゲイであった割合は 72.7%であった(付表 14)。
- HIV 検査の受検経験では、今回が初めての受検と回答した人は 22.5%であった。本キャンペーンを利用したことがある人は 43.5%であった(図 2)。
- 過去 6 ヶ月間の有料ハッテン場とバーの利用割合は、両方利用者が 27%、ハッテン場のみ利用者が 34%、バーのみ利用者 17%、両方利用なしが 22%であった。利用経験別に受検経験をみると、初受検者割合はハッテン場のみ利用者で最も高く 27%であり、次いで両方利用なしが 26%であった(図 3)。
- dista の認知割合は 66%、<SaL+>59%、<南界堂通信>12%であった。(図 4)

(2) クリニックで HIV&梅毒検査受けてみるキャンペーン

(目的)

これまでに実施した<クリニック検査 1,000 円キャンペーン>のノウハウを活かし、若年層向けの新たな検査機会の創出とする。

(方法)

1) 本キャンペーンの資材を、クリニックに提示すると、無料で HIV と梅毒の検査が受けられる。
2) 受検者は迅速検査を実施している診療所・クリニックか通常検査を実施している診療所・クリニックを選択する事が出来る。
3) 本キャンペーンの資材として、イベント出演者である GOGOBOY やパフォーマー 10 名からの写真とセーファーセックスのメッセージを添えたブックレットを作成し、ク

リニックで HIV&梅毒検査受けてみるキャンペーンの受検案内ちらしを挟み込みをし、来場者全員に手渡しで配布する。

4) 無料による受検人数の殺到を懸念し、またすでに予定されていた＜クリニック検査 1,000 円キャンペーン＞の広報と混同されることによる混乱を避けるため、広報期間が被らない様に、7 月 14 日に Zepp なんばで開催され、比較的若い層が集まりやすい大型クラブイベント（ZUMANITY）でのみ広報を行った。

5) 検査受付期間は、受検者と医療機関の混乱を避けるため、＜クリニック検査 1,000 円キャンペーン＞の検査受付期間と被らない様に 7 月 16 日から 7 月 28 日の 2 週間とした。

6) 公益財団法人エイズ予防財団の事業費をい財源とした。

（成果）

6 ヵ所の診療所・クリニックの協力を得て実施した。大型クラブイベントには、計 1,300 名の来場があり、全員に資材を手渡しで配布する事が出来た。検査受付期間中 6 名の受検者があった。このキャンペーンを利用して、HIV と梅毒の感染を早期に知る機会になった。

受検者へのアンケートも実施したが、受検者数が少なく回答者の特定に繋がることに配慮し、ここでは割愛する。

(3) ＜プロフェッショナルミーティング＞（以下、PM）

（目的）

大阪地域在住の MSM に対し HIV 感染に関して予防と検査に関わるプログラムを提供する地域の人的リソースは、行政セクターで市民を対象に検査相談事業に関わっている専門職者（保健師、派遣カウンセラー等）、および予防や検査のプログラムを提供する市民セクターで働く専門職者（NGO 職員、ボランティア）、の二グループに大別される。これまで、これら二つのセクターにまたがる情報共有の場は、啓発や検査に関わるイベントなど偶発的な場合を除いて、恒常的な仕組みとしては実施されてこなかった。本企画は、検査相談事業に関わる専門職者がセクターを越えたネットワークを構築する場を恒常的に創出することで、大阪地域における MSM の HIV 予防と検査をめぐる環境を向上させることを目的とする。

ネットワーク構築の具体的な成果としては、以下の二点が期待される。1)行政セクターの専門職者が大阪地域在住の MSM の予防・検査行動に関する情報を得ることで、MSM に対しより質の高いプログラムが提供できるようになる；2)市民セクターの専門職者が地域全体の検査場における MSM 対応状況を把握することで、MSM への検査行動の促しに活用できるようになる。

（内容）

・導入セッション

・プレゼンテーション：

「大阪地域保健所検査受検者アンケート結果報告」塩野徳史（名古屋市立大学看護学部）

「大阪地域における HIV 感染対策の現在の状況と今後について」後藤大輔（MASH 大阪/財団法人エイズ予防財団）

・日頃の成果と課題を共有するための懇談会

（広報）

大阪市保健所、大阪府保健所の感染症担当より各保健所（センター）へ周知した。

（結果）

開催日：2013（平成 25）年 5 月 29 日（月）19:00～21:00

場所：山西記念福祉会館（大阪市北区神山町）

1) 参加者 18 名、（発表者 2 名、スタッフ 3 名、オブザーバー1 名を含めると計 24 名）。

2) 参加機関 10 機関（大阪府地域保健感染症課、堺市保健所、四条畷保健所、池田保健所、大阪市北区、淀川区、大阪市保健所、特定非営利活動法人 CHARM、スマートらいふネット、大阪府立公衆衛生研究所）

（成果）

1)参加者アンケートに「NPO・NGO と行政の情報

共有・課題共有の場となった」「他行政の取り組みを知ることができた」といった記述がみられ、縦割り行政の枠組みを超えた情報共有・課題検討の場になった。

2)顔の見えない関係性でなくなった。

(4) 大阪府の検査場面における MSM への対応の研修会

(目的)

大阪府の検査場面における研修のひとつとして、HIV 相談について、MSM 対応の模擬体験を主に行うプログラムを企画して実施した。検査に関わる保健師の MSM への対応の準備性を高める事を目的とする

(内容)

HIV 検査・相談事業に関わる保健師や医師等を対象とした。受講者に現実的な相談場面を体験してもらうため、MASH 大阪がリクルートした人に仮想事例を演じてもらい、受講者がそれに対応した。グループワークを通じて密な振り返りを行った。

また、受講者が今回の研修で知りたいことを事前に聞き取り、研修の中に情報を含めるようにした。

(結果)

開催日：2013（平成 25）年 10 月 25 日

場　所：大阪府立公衆衛生研究所

1) 参加者 23 名、(受講者 14 名、講師 2 名、模擬体験講師 4 名、スタッフ 3 名)

参加機関 11 機関(吹田保健所、茨木保健所、枚方保健所、守口保健所、藤井寺保健所、富田林保健所、和泉保健所、泉佐野保健所、堺市保健所、東大阪市西保健センター、スマートらいふネット)

3.介入プログラムの効果評価

1) コミュニティネットワークを用いた MSM を対象とする性の健康、HIV/AIDS 感染予防行動に関する質問紙調査-GCQ アンケート 2013-

(目的)

横断的な質問紙調査を実施し、近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM における HIV を含む性感染症に関連した状況や行動を年齢層別に把握することである。

(方法)

近畿地域での実施は 2013（平成 25）年 4 月 7 日から 7 月 15 日までの約 3 ヶ月間とした。実施期間中に MASH 大阪の配布した QR コードによって 1,504 名の回答を得た。そのうち重複回答を除く、近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM は 790 名であった（有効回答率 52.5%）。

また他地域の QR コードから回答した近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM が 153 名おり、合わせて 943 名を分析対象とした。

分析対象となった 943 名を 2012 年度と同様に、年齢層について 24 歳以下、25-29 歳、30-34 歳、35-39 歳、40 歳以上の 5 カテゴリーに分類し、質問項目を年齢カテゴリー別に分析した。24 歳以下は 253 名(26.8%)、25-29 歳は 264 名(28.0%)、30-34 歳 180 名(19.1%)、35-39 歳は 127 名(13.5%)、40 歳以上は 119 名(12.6%)であった。

データの集計および統計処理には IBM SPSS Statistics 19 を用いた。なお、本研究実施計画については名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会より実施の承認を得た（ID 番号 11027-2)。

(結果)

近畿地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM 943 人の年齢層別の状況について付表 15－18 に示した。

全体ではゲイであると回答する割合は 83.0%であり、独居割合は 49.2%、既婚割合は 1.0%、健康保険未加入割合は 2.5%であった。生涯におけるゲイ向け商業施設利用割合はゲイバーが最も高く 87.6%、次いでスマートフォンのゲイ向けアプリ 74.9%、ゲイナイト 72.9%、携帯出会い系サイト 69.6%等であっ

た。ゲイバーやゲイナイト、有料のハッテン場等は年齢層が高いほど利用割合が高かった。（付表 15）

生涯の HIV 抗体検査受検割合は年齢層によって異なり 40 歳以上が最も高く 75.6%、次いで 30-34 歳 73.3%、35-39 歳 72.4%、25-29 歳 65.5%、24 歳以下 43.1%であった（p<0.01）。過去 1 年間の HIV 抗体検査受検割合も年齢層によって異なり 30-34 歳が最も高く 45.0%、次いで 25-29 歳 39.8%、35-39 歳 33.1%、24 歳以下 32.0%、40 歳以上 26.9%であった（p=0.01）。2012 年度の調査結果においても生涯受検割合は 40 歳以上では 78.8%と高く、過去 1 年間の受検割合は 30-34 歳が 39.5%で最も高かった。本アンケートが予防意識の高い層に偏っている可能性もあるが、MASH 大阪の活動期間や主に対象としてきた年代層で過去 1 年間の受検割合は高いことは介入効果の可能性も示唆される。一方で若年層での HIV 感染拡大が指摘されており 24 歳以下の受検割合を介入の浸透度の高いと思われる年代層の割合に近づける必要がある。（付表 16）

コミュニティセンターの来場経験割合は全体では 32.4%、年齢層別には 35-39 歳が最も高く 40.9%、次いで 30-34 歳 37.2%、25-29 歳 31.8%、40 歳以上 31.1%、24 歳以下 26.1%であった（p<0.01）。コミュニティペーパーの既読割合は全体では 58.4%、年齢層別には 35-39 歳が最も高く 75.6%、次いで 40 歳以上 71.4%、30-34 歳 69.4%、25-29 歳 53.0%、24 歳以下 41.5%であった（p<0.01）。＜南界堂通信＞の既読割合は全体では 6.5%、年齢層別には 40 歳以上が最も高く 15.1%、次いで 30-34 歳 5.6%、24 歳以下 5.5%、25-29 歳 4.9%、35-39 歳 4.7%であった（p<0.01）。コミュニティセンターやコミュニティペーパーの接触状況には蓄積効果がみられ年齢層が高くなると来場割合や既読割合は高くなる傾向であり、2012 年度調査結果と同様であった。新規の＜南界堂通信＞は目的とした対象層では既読割合が他の年齢層に比べて高い一方で、39 歳以下では既読割合に差はみられなかった。（付表 18）

コンドーム使用状況については年齢層における差はみられず、全体で 48.2%と低い割合にとどまっていた（付表 17）。一方で検査行動に関してはこれまでの啓発介入が届いていた年代層（25-39 歳）では、再受検も含めて検査行動が促進された可能性が考えられる。しかし MASH 大阪の活動の接触については 24 歳以下では来場経験割合や既読割合が低く、介入の浸透度は低いと考えられる。

2）HIV 抗体検査を受検する人を対象にした質問紙調査

（目的）

本報告では MSM 受検者の特性に焦点をあて、検査行動の促進に関する介入の効果評価を目的とした。

（方法）

大阪府内の 15 箇所の保健所の協力を得て HIV 検査受検者を対象とした質問紙調査を実施した。本分析では 2013（平成 25）年 1 月から 9 月末に得られた回答者を対象とした。

方法は、HIV を含む性感染症の検査受検者に調査回答を依頼し、同意の得られた受検者から回答を得た。通常検査、即日検査のいずれの場合も検査結果が返却される前に質問紙を記入することを依頼した。記入後は回答者が回答用封筒に質問紙を密封し、各機関に設置された回収箱に投函する方法とした。集められた質問紙は毎月月末に各機関で回収し、調査事務局へ密封したまま郵送された。

質問項目は基本属性、HIV 検査受検経験、HIV や検査に対する意識、性行動、資材認知等とした。資材や CBO の活動の認知には画像を使用した。

調査の概要として HIV 検査実施状況および陽性判明数（率）を男女別に付表 19 に示した。2013（平成 25）年度は累計で受検件数は 10,253 件であり、陽性判明数は 41 名（0.40%）であった。質問紙は 8,499 名の回答を得た（回収率

82.9%)。

年齢・居住地・性別・生涯のHIV検査経験について無回答であったものを除き、有効回答とした。その他の項目について無回答であった場合はいずれかの選択肢に含めて集計した。2013（平成25）年1月から新たにHIV/STIや検査に関する知識として以下の5項目追加した。ウィンドウピリオドについて「通常のHIV検査では、感染から2〜3ヶ月経過しないと感染しているかどうか分からない(正答)」、偽陽性の可能性について「HIV即日検査や郵送検査キットでは、感染していなくても陽性（感染している）と結果が出ることがある。(正答)」、偽陽性の場合、再検査の必要性があることについて「HIV即日検査や郵送検査キットでは、検査結果を確認するため病院などで再度検査が必要になる場合がある。(正答)」、重複感染について「性感染症に感染していると、HIVに感染しやすくなる。(正答)」、服薬治療について「HIV感染症は医療の進歩で、服薬を継続することでエイズ発症をコントロールできる病気となった。(正答)」。これらの項目の追加にあたっては各保健所担当者やCBO等の当事者と検討を重ねた。

分析では、性別が男性であり「これまでにセックスをした相手の性別」が男性または男性と女性両方であったと回答した人をMSMとした。性別が男性でありMSMではなかった人をMSM以外の男性とした。MSM以外の男性、女性、MSMの3群に分類し、各群における差異について検討した。そしてMSM群におけるCBO活動や資材の認知によってあり群となし群に分類し、その2群間の差異を検討することによって、介入の効果評価を試みた。

またchotCASTなんばとそれを除く大阪府の保健所に分けて分析した。

（結果）

分析した結果を付表20-23に示した。年齢層は24歳以下、25-34歳、35-44歳、45歳以上の4群に分類した。大阪府内保健所の平均年齢は33歳±8歳であり最少齢15歳、最高齢82歳、chotCASTなんばの平均年齢は32歳±9歳であり最少齢15歳、最高齢73歳であった。

大阪府内の保健所受検者についてMSM以外男性受検者（52.1%）、女性受検者（34.5%）、MSM受検者（13.5%）別にみると、居住地は大阪府在住者がいずれの群でもほとんどであり全体では89.2%であったが、MSM以外男性やMSMでは大阪府以外からの受検者も1割以上いた(p=0.01)。独居割合や未婚者割合はMSM以外の男性・女性に比べMSMで高かった(p<0.01)。健康保険未加入割合はMSM以外の男性4.0%、女性6.8%、MSM8.0%でMSMでは他に比べ高かった(p<0.01)。また過去6ヶ月間にお金をもらった性交経験はMSM以外の男性0.8%、女性13.1%、MSM10.7%でありMSM以外の男性に比べ女性、MSMで高かった(p<0.01)。性感染症既往でもMSM以外の男性20.0%、女性31.8%、MSM33.8%でありMSM以外の男性に比べ女性、MSMで高かった(p<0.01)。(付表20)

chotCASTの受検者のなかでMSM割合は17.6%であった。chotCASTなんばの受検者は大阪府内の保健所受検者と同様の傾向であったが、大阪府以外からの受検者割合は保健所受検者より高く、MSM以外の男性20.7%、女性16.8%、MSM24.1%であった。(付表22)

MASH大阪による活動や広報の認知割合は、大阪府内の保健所受検者では、MSM以外の男性0.7%、女性1.7%、MSM27.4%であり、MSM以外の男性、女性に比べMSMで高かった(p<0.01)（付表20)。chotCASTなんば受検者では、MSM以外の男性1.7%、女性1.8%、MSM30.3%であり、同様にMSM以外の男性、女性に比べMSMで高かった(p<0.01)　(付表22)。

MSM受検者におけるMASH大阪による活動や広報の認知別の受検者特性については付表21と付表23に示した。大阪府内の保健所受検者でもchotCASTなんば受検者においても認知群では再受検割合が非認知群に比べ高く、HIVや性感染症について友達に相談「できる・できる

と思う」割合や相談場所の認知割合が非認知群に比べ高かった。

D. 考察

今年度初頭に掲げた研究計画の項目にそって、研究事業の実施状況を総括する。

（一次予防関連）

＜SaL+＞は、計画通りに執行された。内容面での傾向も昨年を踏襲したものとなった。また、既に長期間継続して発行されており、その効果も実証されている。しかしながら若年層の活字離れと言う要因もあってか、ターゲットへの訴求力が弱まってきている事は否定できない。

＜南界堂通信＞を中高年に特化した資材として、発行する事が出来、安定した編集体制を構築できるようになった。また調査の結果、比較的順調にターゲット層に浸透している事が示唆された。

dista は、おおむね計画通りに執行された。その結果として、利用者は微増したが、新規利用者の割合は昨年と同等であり、今後は新しい層をどう効率的に取り込んで行くかを計画する必要がある。

若年層のネットワーク育成＜Step＞は、計画通りに執行され、ターゲットとする層からのリクルートも若者オーガナイザーを中心とした内容にする事で参加者が増えた結果となった。

＜性の健康教室＞は、プログラムの名称と内容が変更されたが、これまでの質やノウハウを活かしながら維持され、参加者数もほぼ前年までの水準を維持した。

（二次予防関連）

大阪府より委託を受け、STI クリニックでの受検を促進するプログラム＜クリニック検査 1,000 円キャンペーン＞の広報を実施した（2013（平成 25）年 8 月～9 月末と、2013（平成 25）年 12 月～2014（平成 26）年 2 月末）。また、広報先の拡充方法として今回 MASH 大阪と協力関係にあるハッテン場全店舗のロッカーに常設のマグネットポケットを設置し、そこに啓発の資材を入れる事が出来た。

＜クリニックで HIV と梅毒検査受けてみるキャンペーン＞では、無料であること、比較的受けやすいクリニックが複数あることから、受検者の殺到が懸念されたが結果は受検者 6 名と、無料のファクターが受検動機を大きく促進するものではない事が示唆された。また広報を MSM が集まる場所でのみ行ったことで HIV や梅毒の感染を早期に知る機会を提供できたとかんがえられる。このことから、少ない受検者数でも感染の可能性があると思われる人に届けられた可能性があり、MSM の集まる場所における広報は効果が高い事が示唆された。

PM では、色々なセクターが MSM の HIV 予防を共に考える事によって、NPO/NGO と行政機関との情報共有や、考える場になった。

大阪市保健所より依頼を受け、大阪市北区保健センターでの午後の臨時検査について、＜SaL+＞で広報を行った。

（アウトリーチ関連）

配布部数、参加するボランティア数、配布先店舗数など、昨年と同様の規模と質を維持した。

（アドボカシイ関連）

大阪大学医学部より依頼があり、dista の見学・講義を実施した。

また地域のステーショナリー企業と協力し、文房具開発を行った。そして、LGBT の医療・福祉・教育を考える全国大会において、大阪地域における HIV・エイズの現状などのワークショップを開催した。

（学会等での情報発信）

第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会において、演題発表を行った。11th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific

において、<SaL+>の効果評価について報告した。(下記研究発表等を参照)

(研究関連)

大阪府内の無料匿名検査場で、受検者アンケート 2013 を実施した。STI クリニックでの検査プログラム<クリニック検査 1,000 円キャンペーン>において、大阪府の委託により受検者アンケートを実施した。

介入プログラムの効果評価として、GCQ アンケート 2013 と HIV 抗体検査を受検する人を対象にした質問紙調査を実施した。

予防行動のうち受検行動は生涯受検割合が 2012 年度 59.7%、2013 年度 63.2%であり、過去 1 年間の受検割合が 2012 年度 36.3%、2013 年度 36.2%であり大きな変化はみられなかった。またコンドーム使用状況についても同様で、過去 6 ヶ月間のアナルセックス時のコンドーム常用割合は相手別には、彼氏や恋人などの特定相手との場合が 2012 年度 39.1%、2013 年度 47.5%、友達やセクフレなどの相手との場合が 2012 年度 49.4%、2013 年度 48.8%、その場限りの相手との場合が 2012 年度 49.4%、2013 年度 51.7%であった。

一方でコミュニティセンターの来場経験割合は 36.9%(2012 年度)から 32.4%でほぼ横這いであり、コミュニティペーパーの既読割合は 65.4%(2012 年度)から 58.4%に低下していた。本調査の回答者集団に偏りが生じている可能性もあり限界が大きいが、24 歳以下の若年層では介入の浸透度が他の年齢層に比べ低く、全体の予防行動の割合が低下していることが考えられ、今後は 24 歳以下の介入を進めていくことが必要となる。

また受検者を対象とした質問紙調査からは、保健所受検者における MSM 割合等を明らかにした。chotCAST なんば受検者は大阪府内の保健所受検者と比べ大阪府以外の居住者がやや多い傾向であった。MSM 受検者においてはいずれの検査機関受検者でも MASH 大阪の活動の認知割合は約 3 割であり、認知群では非認知群に比べ相談場所などの支援情報を得ている可能性も示唆された。受検者における MSM 割合や活動認知割合は今後の介入を進めていく上で基礎資料となる。

総じて今後の介入の方向性として 24 歳以下の受検行動の促進が必要である。また年齢に限らずコンドーム使用行動を促進させる取り組みが必要と考えられる。

E. 結語

1. プログラムはおおむね計画通りに継続された。<SaL+>は、すでに長期間継続的に実施されているものであり、その効果も実証されている。量的、質的エビデンスも蓄積されてきており、運営基盤がより安定した。しかしながら若年層の活字離れという要因もあってか、ターゲット層への訴求力が弱まっていることは否定できない。また、中高年層向けのメディア<南界堂通信>は調査の結果比較的順調にターゲット層に浸透しており、編集体制も整備されつつある。コミュニティセンターの月平均初来場者数は、昨年度 59.1 名であったが、本年度は 63.1 名とやや持ち直し、特に 9 月以降は 78.3 名まで上昇し、高い来場者率を保っている。
2. 「エイズ予防のための戦略研究」によって整備されたプログラムの多くが「同性愛者の HIV に関する相談・委託事業」によって引き継がれ、公費により委託を受けた民間非営利セクターが一次・二次・三次予防のプログラムを実施する状況が大阪地域に定着した。また、<クリニック検査 1,000 円キャンペーン>においては、自治体(大阪府)の予算のみで実施することが出来、商業的ハッテン場での広報に大幅な進展がみられた。全てのハッテン場のロッカーにマグネットポケットを設置し、そこに資材を配置する方法は、来年度以降も広報活動に大きく貢献することが期待される。

3. 本年度はアウトリーチのボランティア募集において困難があった。アウトリーチ体制の再構築が喫緊の課題である。
4. 地方自治体が進める「予防指針」策定作業への参画、保健師研修への協力などの点において、行政との協働事業に進展が見られた。

F. 発表論文等

(論文)

1. 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎：MSM (Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, 日本公衆衛生学雑誌, 2013, 60 巻(10 号), 639-650
2. Jane Koerner, Satoshi Shiono, Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Hiroyuki Tsuji, Toshio Machi, Daisuke Goto, Tetsuro Onitsuka: Factors associated with unprotected anal intercourse and age among men who have sex with men who are gay bar customers in Osaka, Japan, Sexual Health, 23 February 2012
3. 金子典代, 大森佐知子, 辻宏幸, 鬼塚哲郎, 市川誠一:ゲイ・バイセクシュアル男性における HIV 感染予防行動のステージと関連要因-大阪市内での商業施設利用者への質問紙調査から, 日本公衆衛生雑誌, 2011, 58(7), 501-514

(口頭発表)

1. Daisuke Goto, Satoshi Shiono, Toshio Machi, Tetsuro Onitsuka, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: Effectiveness of preventive intervention related to condom use among MSM in the Kinki area, The 11th ICAAP, Bangkok, Thailand, 2013
2. Tetsuro Onitsuka, Sohei Yamada, Hiroyuki Tsuji, Daisuke Goto, Toshio Machi, Takaki Toda, Hirokazu Kimura, Kumiko Nakamura, Seiichi Ichikawa: Analysis of Paper Media Contents Targeting Approach to Outreach MSM in the Osaka Region, The 10th ICAAP, Busan, Korea, 2011
3. Tetsuro Onitsuka, Hiroyuki Tsuji, Jane Koerner, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: The HIV/AIDS epidemic among MSM in Japan: Background & gay NGO responses, 1st Developed Asia Regional Consultation on HIV in MSM and TG, Singapore, 2010
4. 町登志雄, 後藤大輔, 鬼塚哲郎, 川畑拓也, 岳中美江, 塩野徳史, 市川誠一: MSM向けHIV検査普及プログラム「クリニック検査1000円キャンペーン」広報についての考察」, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
5. 牧園祐也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
6. 金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊広, 岩橋恒太, 市川誠一:MSM向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
7. 川畑拓也, 後藤大輔, 町登志雄, 鬼塚哲郎, 塩野徳史, 市川誠一, 岳中美江, 岩佐厚, 亀岡博, 菅野展史, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一:診療所を窓口としたMSM向けHIV検査普及プログラムの改良に向けた検討, 第27回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013

付表 1：SaL+配布実績（2013 年 12 月末時点）

期間	配布された施設 （昨年度の数値）	送付団体・個人 （昨年度の数値）	配布された部数 （昨年度の数値）	配布スタッフ延べ数 （昨年度の数値）
2013 年 4 月	187 店舗（187 店舗）	40 団体（40 団体）	6619 部（6431 部）	22 名（21 名）
5 月	184 店舗（186 店舗）	45 団体（41 団体）	6284 部（6326 部）	20 名（21 名）
6 月	186 店舗（181 店舗）	45 団体（41 団体）	6374 部（6274 部）	23 名（23 名）
7 月	189 店舗（185 店舗）	45 団体（41 団体）	6444 部（6337 部）	22 名（17 名）
8 月	189 店舗（185 店舗）	46 団体（41 団体）	6470 部（6296 部）	17 名（21 名）
9 月	188 店舗（185 店舗）	46 団体（42 団体）	5900 部（6326 部）	18 名（18 名）
10 月	186 店舗（180 店舗）	46 団体（41 団体）	6335 部（6204 部）	20 名（22 名）
11 月	189 店舗（181 店舗）	46 団体（41 団体）	6477 部（6226 部）	26 名（30 名）
12 月	186 店舗（185 店舗）	46 団体（45 団体）	6387 部（6316 部）	26 名（26 名）
2014 年 1 月	184 店舗（店舗）	団体（団体）	6302 部（部）	名（名）
2 月	183 店舗（店舗）	団体（団体）	6087 部（部）	名（名）
3 月	店舗（店舗）	団体（団体）	部（部）	名（名）
4 月～12 月	月平均 187 店舗	月平均 45 団体	月平均 6365 部 合計 57290 部	月平均 21 名 合計 194 名

付表 2：南界堂通信配布実績（2013 年 12 月末時点）

期間	配布された施設 （昨年度の数値）	送付団体・個人 （昨年度の数値）	配布された部数 （昨年度の数値）	配布スタッフ延べ数 （昨年度の数値）
2013 年 5 月	184 店舗	45 団体	1800 部	20 名
8 月	201 店舗	45 団体	1775 部	17 名
11 月	202 店舗（199 店舗）	46 団体（41 団体）	1838 部（1628 部）	26 名（23 名）
計	平均 195 店舗	平均 45 団体	平均 1804 部 合計 5413 部	平均 21 名 合計 63 名

付表 3：dista 利用者状況-2013 年度（12 月末時点）

期間	MASH 大阪 業務利用者 （うち初来場者）	イベント来場者 （うち初来場者）	ふらっと来た人 （うち初来場者）	情報入手・相談・貸出 （うち初来場者）	合計 （うち初来場者）	稼働時間
4 月	8 名（ 0 名）	155 名（ 7 名）	418 名（54 名）	15 名（1 名）	596 名（62 名）	158 時間
5 月	43 名（ 0 名）	140 名（ 3 名）	395 名（38 名）	11 名（ 1 名）	589 名（42 名）	183 時間
6 月	38 名（ 5 名）	146 名（14 名）	403 名（52 名）	38 名（14 名）	625 名（85 名）	183 時間
7 月	37 名（ 2 名）	202 名（21 名）	301 名（26 名）	9 名（2 名）	549 名（51 名）	184 時間
8 月	15 名（ 3 名）	129 名（ 9 名）	337 名（21 名）	21 名（ 5 名）	502 名（38 名）	176 時間
9 月	35 名（ 2 名）	246 名（26 名）	366 名（41 名）	23 名（ 10 名）	670 名（79 名）	193 時間
10 月	45 名（ 1 名）	178 名（26 名）	454 名（46 名）	24 名（ 3 名）	701 名（76 名）	182 時間
11 月	12 名（ 1 名）	266 名（27 名）	440 名（42 名）	24 名（ 10 名）	742 名（80 名）	183 時間
12 月	34 名（ 7 名）	193 名（15 名）	406 名（30 名）	12 名（ 3 名）	645 名（55 名）	179.5 時間
1 月	名（ 名）	名（ 名）	名（ 名）	名（ 名）	名（ 名）	時間
2 月	名（ 名）	名（ 名）	名（ 名）	名（ 名）	名（ 名）	時間
3 月	名（ 名）	名（ 名）	名（ 名）	名（ 名）	名（ 名）	時間
年度合計	267 名（21 名）	1655 名（148 名）	3520 名（350 名）	177 名（49 名）	5619 名（568 名）	1621.5 時間
月平均	29.6 名 （2.3 名）	183.8 名 （16.4 名）	391.1 名 （38.8 名）	19.6 名 （5.4 名）	624.3 名 （63.1 名）	180.1 時間

付表 4：dista 利用者数年度別推移-2003 年 4 月～2013 年 12 月末時点

年度	合計	月平均
2003 年度（平成 15 年度）	3436 人	286.3 人
2004 年度（平成 16 年度）	5910 人	492.5 人
2005 年度（平成 17 年度）	6187 人	515.5 人
2006 年度（平成 18 年度）	8402 人	700.2 人
2007 年度（平成 19 年度）	9377 人	781.4 人
2008 年度（平成 20 年度）	9749 人	812.4 人
2009 年度（平成 21 年度）	9815 人	817.9 人
2010 年度（平成 22 年度）	9989 人	832.4 人
2011 年度（平成 23 年度）	7331 人	610.9 人
2012 年度（平成 24 年度）	7653 人	637.8 人
2013 年度（平成 25 年度） 12 月末現在	5619 人	624.3 人

付表 5：dista 利用者年代別状況-2013 年度（12 月末時点）

期間	～10 代	20 代	30 代	40 代	50 代～	合計
4 月	16 名	258 名	236 名	64 名	22 名	596 名
5 月	23 名	236 名	234 名	70 名	26 名	589 名
6 月	32 名	252 名	224 名	86 名	31 名	625 名
7 月	8 名	198 名	235 名	76 名	32 名	549 名
8 月	22 名	180 名	203 名	65 名	32 名	502 名
9 月	21 名	267 名	252 名	86 名	44 名	670 名
10 月	22 名	281 名	284 名	73 名	41 名	701 名
11 月	24 名	322 名	284 名	76 名	36 名	742 名
12 月	34 名	253 名	250 名	75 名	33 名	645 名
1 月	名	名	名	名	名	名
2 月	名	名	名	名	名	名
3 月	名	名	名	名	名	名
合計	202 名	2247 名	2202 名	671 名	297 名	5619 名
月平均	22.4 名	249.6 名	244.6 名	74.5 名	33 名	624.3 名

付表 6：主たる dista カフェイベント及び教室・講座の実施内容一覧
-2013 年度（12 月末時点）

イベント名	イベント・教室の内容
Salon de ONI	ワインを楽しみながら、年齢層の高い人も交えてじっくり深い話が出来る空間を提供する。不定期、第 4 土曜日に開催。
レインボーアディクションミーティング	LGBT の人たち向けの様々なアディクションからの解放と回復を目的としたグループミーティング。毎月第 4 木曜日に開催。
東方美男	中国茶やスイーツを手軽に楽しみながら、来場者同士でじっくり話の出来る空間を提供する。奇数月の第 1 土曜日に開催。
CAMP!	映画を素材として、参加者と主催者でセクシュアルマイノリティに関する話題を展開していくイベント。3 ヶ月に 1 回開催。
虹茶房	地域社会を構成する様々な人達(ヘテロセクシュアル/LGBT/HIV 陽性者)が等しく豊かさを求められるコミュニティ・社会の実現を目指し、ふれ合いの場を提供するカフェイベント。毎月最終土曜日に開催。
honey movie	ゲイや社会にまつわる映画・映像作品を観て、感じたことを語らうイベント。毎月最終日曜日に開催。
二般ハングル教室	誰でも参加可能な韓国語会話教室。教室以外にも温泉旅行に韓国旅行など、メンバーの親睦も図るイベントも行う。第 1、第 3 金曜日に開催。
L*Sign -手話教室-	セクシュアルマイノリティ対象の手話教室。日本手話でろう者と日常的な会話が出来るようになる事を目的としている。第 2、第 4 金曜日に開催。
中国語講座	片言でも通じる観光用の会話と中国語歌詞でカバーした日本曲の「サビ」カラオケを題材とした中国語教室。毎月第 1 土曜日と第 3 日曜日開催。
アートワークショップ アトリエP	様々な画材を使って自由にモノ作りをすることを通して、参加者に交流してもらうオープンスタイルのワークショップ。不定期開催。
堂山アートな なう&ひあ	アート系もの作りイベント（スタジオ）と外へお出かけの後 dista へ向かう（トリップ）がある。奇数月の第 2 木曜日と偶数月の第 2 土曜日に開催。
ヨガ	初心者でも楽しめるヨガとストレッチを組合わせた体操イベント。毎月第 2 月曜開催
性の健康教室	性感染症予防啓発のためのワークショップ型勉強会。毎月第 2 土曜日開催。
アロマ教室	アロマを使ったセルフヒーリング教室。毎月第 2 日曜日開催。
あすぽらっきぃ	ジェンダーの視点から発達障がいを考え、ゲストスピーカーを通して発達障がいのある方でも「私メッセージ」で語る方法と大切さを伝えるトークイベント。
ﾄｰｼﾞｼｬｼｭｰﾍﾝﾅｲﾄ	セクシュアルマイノリティおよび発達障がいの当事者やその周辺にいる人たちが参加可能なトークイベント。毎月第 2 水曜日開催。
ハピ☆コミ	カードゲームなどを通して楽しくコミュニケーションを学ぶワークショップ型イベント。毎月第 1 木曜日開催。
STEP	若者ゲイ・バイ男性のための「STEP☆DAY」（毎月最終水曜日開催）と、若者ゲイ・バイ男性のためのお友達づくり応援イベント「STEP☆PARTY」（不定期開催）。
哲学カフェ	ファシリテーター（対話の整理役）の力を借りて、セクシュアルマイノリティに関するテーマについて 論理的に対話することを目指すトークイベント。不定期開催。

付表 7：dista 展覧会の実施内容一覧-2013 年度（12 月末時点）

タイトル	アーティスト	期間	来場者数
「ZUMANITY&NUDE」写真展	早川智彬 ほか	7 月 10 日～7 月 22 日	113 名
「めんたいこ展」	ー＋（いっと）	9 月 25 日～10 月 14 日	133 名

付表 8：dista 相談件数の推移—2013 年度（12 月末時点）
（電話相談・別目的での来場後に相談へ移行したものを含む）

年度＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
2004 年度	1 件	3 件	4 件	3 件	0 件	1 件	0 件	0 件	0 件	3 件	3 件	0 件	18 件	1.5 件
2005 年度	2 件	2 件	0 件	4 件	1 件	5 件	1 件	1 件	1 件	1 件	0 件	1 件	19 件	1.6 件
2006 年度	6 件	10 件	4 件	0 件	1 件	7 件	1 件	3 件	3 件	6 件	3 件	5 件	49 件	4.0 件
2007 年度	5 件	7 件	23 件	15 件	9 件	7 件	19 件	5 件	5 件	0 件	0 件	2 件	97 件	8.1 件
2008 年度	19 件	10 件	19 件	18 件	20 件	19 件	21 件	32 件	18 件	23 件	20 件	27 件	246 件	20.5 件
2009 年度	10 件	31 件	16 件	26 件	14 件	28 件	19 件	27 件	21 件	3 件	1 件	6 件	202 件	16.8 件
2010 年度	20 件	15 件	29 件	9 件	13 件	25 件	21 件	10 件	12 件	24 件	10 件	5 件	193 件	16.0 件
2011 年度	23 件	18 件	21 件	8 件	11 件	23 件	23 件	8 件	3 件	24 件	15 件	10 件	187 件	15.5 件
2012 年度	20 件	29 件	53 件	36 件	54 件	63 件	67 件	41 件	18 件	57 件	41 件	11 件	490 件	40.8 件
2013 年度	12 件	12 件	15 件	10 件	15 件	17 件	13 件	27 件	7 件	件	件	件	12 月迄 128 件	12 月迄 14.2 件

付表 9：dista 相談内容の状況-2013 年度（12 月末時点）

相談内容（複数チェック）		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
A群	HIV 感染不安	3	0	2	1	1	4	1	3	1				
	STI 感染不安	3	0	3	0	2	5	2	2	0				
	HIV 検査に関する相談／報告	2	0	1	0	1	5	3	5	1				
	STI 検査に関する相談／報告	3	1	1	1	0	4	4	0	1				
	HIV/エイズの治療についての質問・報告	0	0	1	0	0	1	0	3	2				
	HIV/エイズに関するその他（一般的な）質問	0	0	3	0	0	4	1	3	0				
	HIV 陽性者としての生活・制度・支援	1	0	1	0	0	3	0	2	1				
	HIV 陽性者グループ・医療相談機関紹介	0	0	0	0	0	1	0	1	0				
	HIV 告知に関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	A 群その他	1	0	3	1	0	1	0	1	2				
B群	恋愛・セックス	6	7	4	5	4	10	7	8	1				
	現在のパートナーとの関係	2	1	0	0	1	5	2	4	0				
	家族との関係について	1	1	2	2	4	5	2	6	2				
	ライフステージに関する不安・問題（進学・仕事・就職・結婚・パートナーシップ・老後の生活等）	3	6	2	4	8	7	5	7	3				
	経済的な不安／問題	0	0	1	1	4	2	1	2	1				
	アイデンティティ、カミングアウト	1	2	1	2	2	3	4	0	0				
	精神的不安、疾患	4	8	3	1	2	6	1	4	1				
	薬物使用、依存からの回復	0	0	2	1	0	0	1	1	0				
	その他の健康相談	0	0	1	0	0	1	0	0	0				
	B 群その他	2	0	4	2	2	6	0	3	2				
C群	企業・行政等との協働、NPO/CBO 組織運営	0	0	1	0	0	0	0	0	0				
	研究デザイン・論文等	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	C 群その他	0	0	0	0	2	2	1	2	0				
合計		32	26	36	21	33	75	35	57	18				

付表 10：コミュニティセンターにおける対人支援会議（2013 年 12 月末時点）

開催日	アジェンダ	参加者数	内容
2013 年 4 月	開催せず	0 名	
5 月	①今後の予定の確認 ②来場者対応について ③来月の予定について	8 名	①これまでの dista の活動および MASH 大阪の歴史について振返り話しをした。
6 月	①コンシェの謝金について ②展覧会について ③来場者集計について ④来場者対応について	8 名	④について：どういう来場者にそれぞれのコンシェルジュがどう対応しているのかについて情報交換した。たとえば、来場者対応が重なり十分な対応が困難な状況のとき、どのように切り抜けているかについて話し合った。
7 月	①来月の予定について ②展覧会について ③dista への苦情（他のテナントから）について ④来場者対応について ⑤クリニック検査キャンペーンについて ⑥HIV 検査と STI の検査の基礎	8 名	②について：現在開催中の展覧会に来たものの来場者が多く、いったん帰って再来場した人がいた。展覧会中のイベント開催時の机の配置は、展覧会みにきた人にも配慮するようにする設置をすることの検討を行った。
8 月	開催せず	0 名	
9 月	①相談について ②dista の気になること ③コンシェルジュの募集について ④今後の予定について	8 名	①について： dista でどのような相談を受けているか、またどのような対応をしているか、実際に相談を受けているコンシェやスタッフの相談事例を共有した。また対応についての意見交換を行った。意見交換をすることによって限界設定を設けることなどを話し合った。
10 月	①来場者対応について ②dista 金庫について ③年末年始の dista の予定について ④展報告について ⑤CBT 面談について ⑥治験について	9 名	①について：来場者同士で差別的な会話をすることがあった。「そういう話題は dista でしてほしくない」と注意するかどうかについて検討した。そのような話題がされているときには、コンシェルジュはできるかぎり中立的な立ち位置でいることが大事だということが確認された。
11 月	①年末年始の予定について ②展覧会について ③dista 利用者感謝祭について ④来場者対応について	7 名	①について：年末年始はずっと開館し、1 月 6 日から 1 月 10 日までは閉館することを話し合った。さらに、dista の壁の補修をすることも話し合った。

付表 11：STI 勉強会（性の健康教室）　実施内容（2013 年 4 月～12 月）

月	テーマ	内容	参加人数
4	ゴムヤロウナイト	コンドームをたくさん用意し、実際に触れてみて大きさや、強度を感じてもらい、暗い場所や視界のあまり聞かない場所を用意し実際につける、使ってみることを体験してもらった。	3名
5	ゴムヤロウナイト part2	コンドームをたくさん用意し、実際に触れてみて大きさや、強度を感じてもらい、暗い場所や視界のあまり聞かない場所を用意し実際につける、使ってみることを体験してもらった。	5名
6	ローションズナイト！！	市販されているローション（潤滑剤）を並べて製品によってどんな違いがあるかをふれてみることで自分の好みのローションを探してみようというテーマで行った。	5名
7	活かせる！イカせるテク！！ セーファーなテク！！！	男性の裸の写真（表面、背面）をプリントアウトし、そこにセックスの時に実際に使っているテクニックなどを出し合い、意見交換を行った。その後、よりセーファーに行うにはどうしたらいいかを話し合った。	3名
8	フェティッシュ×フェティッシュ	男性の惹かれる部位や萌える（燃える）プレイについて意見を出し合い、その後そのプレイの中でどうやってリスクを減らすことができるかと言う内容で今回は実施した。	2名
9	はじめての夜に気になること	付き合い始めて数か月の時に初めて相手の部屋に行き、２人きりに慣れてきたころに今からセックスをするのかな？と言う設定を用意しその瞬間に、参加者が気になるを書いてもらった。出された意見からトークを展開した。	5名
10	理想のデートプラン☆☆/ HIVの感染経路	今回は、前半、後半に分けセックス＆ライフトーク、STI情報コーナーに分けて実施した。前半のセックス＆ライフトークでは、一日（24時間）の予定表に理想のデートプランを書いてもらった。その後、自分の理想のデートプランについて意見交換を行った。後半のSTI情報コーナーではHIVの感染経路についての情報提供を行った。	5名
11	はじめての○○○ ／ マウスケア	今回は、前半、後半に分けセックス＆ライフトーク、STI情報コーナーに分けて実施した。前半のセックス＆ライフトークでは、『はじめての○○○』と題し、参加者の様々な初体験について語ってもらった。後半のSTI情報コーナーではマウスケアについてトークを行った。	5名
12	カルタと梅毒	今回は、前半、後半に分けセックス＆ライフトーク、STI情報コーナーに分けて実施した。前半のセックス＆ライフトークでは、『エロ川柳を作ろう!!』と題し、参加者と一緒に興味を引きつける川柳を作成した。後半のSTI情報コーナーでは梅毒は倍毒!?と題し、梅毒にしぼったトークを行った。	6名

付表 12：若年 MSM ネットワーク構築支援プログラム Step 実施状況 2013 年度

(2013 年 12 月末時点)

実施日時	人数	参加者内訳		
		リピーター	新規	コミュニティセンター dista 初来場者
ステップデー				
5 月 29 日	17 名	14	3	3
6 月 26 日	9 名	9	0	0
7 月 31 日	13 名	11	2	2
8 月 28 日	5 名	5	0	0
9 月 25 日	14 名	13	1	1
10 月 30 日	6 名	4	2	2
11 月 17 日	51 名	45	6	6
11 月 27 日	4 名	4	0	0
12 月 25 日	9 名	8	1	1
計	128 名	113	15	15
外出系企画				
4 月 7 日	39 名	31	8	3
9 月 28 日	5 名	3	2	1
計	44 名	34	10	4

付表 13：選べる STI 検査 1,000 円キャンペーン　ハッテン場へのマグネットポケット配布実績

施設	ロッカー数	パンフレット		
		施設への配布数	回収数	取得数
堂山				
A	18	126	84	42
B	8	56	26	30
C	24	168	148	20
D	240	1680	1517	163
E	358	2506	1290	1216
F	12	84	26	58
G	30	210	178	32
H	60	420	不明	不明
I	24	168	155	13
J	30	210	170	40
ミナミ				
K	24	168	168	0
L	21	147	128	19
M	18	126	100	26
N	24	168	109	59
新世界				
O	248	1736	910	826
P	144	1008	910	98
Q	48	336	不明	不明
R	15	105	96	9
	1346	9422 部	6015 部	2651 部
				28.1%